

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

山陽乳業株式会社

(2) 事業所の所在地

広島県三原市南方一丁目2番1号

(3) 業種

処理牛乳・乳飲料製造業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25(2013)年度を基準年度とし、平成28(2016)年度から平成30(2018)年度までの3年間とする。

3 計画の基本的な方向

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25年度	平成28年度
二酸化炭素	7,537	6,595

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC) (PFC) (SF6) (NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)		削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO2					0
非エネルギー起源CO2					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
その他 温室効果ガス					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量		-			0
目標設定の考え方					

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：牛乳換算値(t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成30年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	7,537	133,795	0.060	18.3	6,397	130,744	0.049
非エネルギー起源CO2							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量	7,537	133,795	0.06	18.3	6,397	130,744	0.049
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	0.0198	1.6	-	-	0.0195
目標設定の考え方	H28年度に大幅にCO2排出量の削減できたため、エネルギー起源CO2はH28年度排出量ベース年1%の削減を目標とする。 (28年度CO2排出量6595 × 97% = 6397)						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a)/(b) 原単位見込(g) = (e)/(f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	13.6KL/年	ボイラー給水タンク保温ジャケット設置
2	電気使用量の削減	4.0KL/年	工場棟の照明器具を高効率機器(LED等)に変更する
3	電気使用量の削減	23.0kl/年	スチームコンプレッサーを導入 ボイラーの蒸気を利用して駆動させる
4	電気使用量の削減	10.0kl/年	アイスビルダー(蓄冷装置)を高効率機器に変更する

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

○ (2) 実施状況の点検・評価

○ (3) 計画書等の公表